

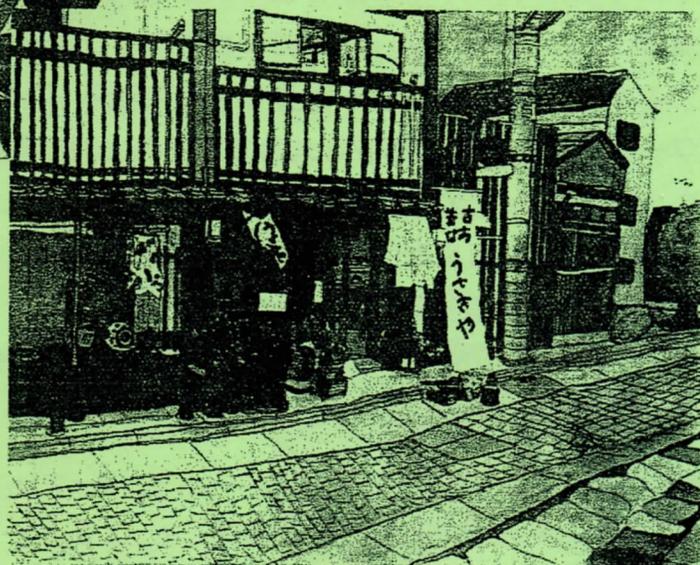
足利風 -ashikaga-fu

2011
12月号

Vol. 17



絵:川島直人



足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

* “つながり”を紡ぐ～場と空間の持つチカラ～ *

25世紀前、アテネの市民は「アゴラ」に集まった。買い物が目的でもあったが、世の中の状況を聞き、リレーションシップを新たにし、集団としてのアイデンティティを確認するためでもあった。実際、「アゴラ」は通常「市場」と訳されるが、文字通りの意味では「集まる場所」である。

いつの時代でも、どこの地域でも、人々は、自分たちを地域コミュニティに結びつけている“きずな”を確認し、生み出し、強化する場と空間を必要としている。市場やカフェ・パブといった気さくな公共生活の核となる場所がなければ、地元の間でもくつろげないのである。地域のコミュニティ意識を高めるため、人々が集う場。人々は、お互いのリレーションシップや自分の住む地域との“きずな”を育むための物理的な“重心”が、どれだけ大切なのかを理解しているのだ。

近年、組織としての知識を開発・活用する上で、ミーティング場所がどれだけ重要かということが認識され始めた。思いがけないアイデアの共有、つまり一方が他方の必要としている知識を持っているとは想像もしなかった人々同士のあいだでの知識共有である。“ウィーク・タイズ(ゆるやかな絆)”の重要性に気づいたのである。こうした知識や情報交換のための空間の多くは、偶然の出会いや会話を促進することを意図した場、カフェや休憩スペース、その他の共有スペース(空間)である。足利市民活動センターという場も、そうありたいと願っている。

“つながり”のための空間～協働のための磁石。このような空間は、協働や相互依存のエンパワーメントにとって必要不可欠なのである。信頼感や公平感を培うのにも役立つのだ。集まり、顔を合わせて、言葉を交わし、お互いの姿を目にする場。そして、そのための時間は、“つながり”を紡ぐためには必要不可欠な要素なのだ。

それこそが信頼と協働を育むといえる。

(M生)

* 茶論「自治基本条例って何？」*

6月4日(土)足利市民活動センター・ボランティアNPO茶論は、新進気鋭の政策通・児玉博昭(白鷗大学准教授)さんをお迎えして、上記テーマでの開催となった。児玉先生は、昨年一年にわたり、英国の地方自治研究のためバーミンガム大学に行かれており、帰国を待っていたの待望の講座となった。

地方分権一括法施行後、地方公共団体の自己責任・自己決定の増大に伴い、自治基本条例制定の動きが加速した。しかし、課題も多い。都市憲章から自治基本条例へという動きは、北海道ニセコ町のまちづくり基本条例から始まり、栃木県においても、レベルの高い大平町の自治基本条例などが制定されている。

足利市においても、全国各地の自治基本条例に学びながら、市民・議会・行政の真の協働に向けて、衆知を集めての議論の始まりが期待される。市制90周年から100周年に向けて、足利市の民度のレベルが試されている。

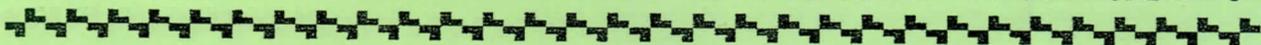
(鈴木光尚)

* 足利学校のブランド化戦略 *

～NPO 法人 デザインファーム 21 代表理事吉田正之～



1995年、足利文字の街構想として私が提言した街づくりの構想がある。これは足利学校を街づくりの中心に置いて、教育(生涯学習)文化・観光・産業の一体化を実現するべく提言した街づくりの基本構想である。足利学校は日本最古の学校、教育の原点であるという理由から、足利学校にまつわるあらゆる可能性を創出し、21世紀に通用する情報化時代の文化型マーケティングで世界に発信しようという構想であった。それから9年後、2004年には足利市立美術館で開催された足利学校を表現のコンセプトにした風呂敷展「50人のクリエイターによる心を包む展」を開催。異例の大成功を収めた。総来館者数 5,553 名、アンケート回収数 1,327 枚。風呂敷の購入希望者が続出したが、商品化してないために販売はできなかった。この展示会は地場産業振興センターの商品開発事業の一環で、私はこのイベントのプロデューサーを仰せつかった。ではなぜ？地場産センター展示スペースではなく美術館で開催したのか？それは風呂敷を商品としてではなく文化として皆様に体感して欲しかったからである。作れば売れる時代であった高度成長期は、人・モノ・金・情報といった体力型経営が主流であったが、今まさに高度情報化時代、ものに満ち足りた今の日本では【知力】としての想像力、洞察力、開発力といった目に見えない要因を、目に見える形、つまり【魅力】としての表現力、演出力、伝達力によって拡散させ人々に伝えていかねばならない。SNSなどのウェブ環境の発達により今後の街づくりやビジネスにおける環境は増々激変して行くことだろう。足利市民の共通のアイデンティティは、日本の教育の原点である足利学校。この想像力を刺激する足利学校を有力な経営資源として捉え、ブランドとしての情報価値を創出していくこと。イメージの極みである文化的マネジメントを戦略とし、戦術としてのデザインの可能性をみんな追求し、表現し、発信して行きたい。



* 「楽しく“フラダンス”を」*

Hula is my life

ALOHA. この言葉は、5つの意味で出来ています。

akahai(やさしさと思いやり) lokahi(調和と融合)

olu'olu(喜びをもって柔和に) ha'a ha'a(ひたすら謙虚に)

ahonui(忍耐と我慢)



頭文字をつなげて ALOHA。Hawaii を訪れ、あの甘い空気とともに味わう言葉です。

今年、日本を襲い、多くの人々の命と心を奪っていった大震災。古くより日本との交流があり、悲しい歴史や感情もありましたが、今、ハワイの人々は皆、一様に心を痛み、日本の為になりたいと、様々な方々が立ち上がり、支援の手を差しのべ続けています。

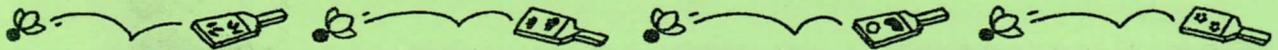
フラを踊るということは、ただ美しく踊り、魅了することではなく、ハワイアンが強くてあたたかい精神を通し、生きる真理を教えていただいているのだ、と最近は思います。

たくさんのアロハスピリットが皆様の心に届きますよう。

E malama pono. (どうかすこやかに)

Noriko hinano okalani kameda 亀田紀子

① インフォメーション ①



初春のお慶びを申し上げます。

昨年は、3月11日の東日本大震災に明け暮れた一年でした。

皆さまのお力添えのもと、足利市民活動センターを拠点とした、

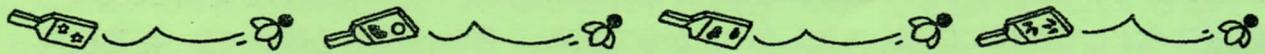
支援の諸活動が全国的に高い評価をうけました。

指定管理3年目も後半の充実期に入っております。震災支援とともに、尚一層の良質な情報のハブ機能を果たしたいと思っております。

みなさまには、ご指導ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2012年元旦

指定管理者・特定非営利活動法人足利の風理事長 鈴木光尚



☆みんなのしゃべり場 ～パート8～

久しぶりの「みんなのしゃべり場 パート8」を開催します！

今回は、新年を迎えてのしゃべり場ということで歌声喫茶風に開催いたしたいと思えます。

楽しく歌いませんか。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

日 時：平成 24年 1月 14日(土) 午後 1時 30分 ～ 3時 30分

会 場：足利市民活動センター 3F フリースペース

問合せ・申込：足利市民活動センター (TEL:44-7311)



* センターからのご案内 *

☆みんなの広場 ～ 12月・1月のご案内 ～

* 足利水土里探偵団展(12月5日～15日)

～12/7・12/14 10時～15時布ぞうり作り～

* 田中正造展～没後100年～(12月19日～28日)

* 初春祝飾り展(1月5日～19日)

* 足利庭園文化研究会展(1月23日～2月2日)

☆相談室&講座のご案内

* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照

* 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

編集後記

大地震、台風と甚大な被害を受けたこの一年。本当に大切なものは何か、を考えさせられました。来年はそれぞれが、真の幸せを見つけ、前進できますように...

(ボンクラ)